

第2回 福岡市緑の基本計画検討委員会 議事要旨

1 日時

令和6年1月26日（金）10時00分 から 12時30分 まで

2 場所

高宮南緑地 ミュージックホール

3 出席者

朝廣委員長、西川副委員長、猪野委員、今井委員（オンライン参加）、耘野委員、大寶委員、椛田委員、小島委員、バート委員（オンライン参加）、藤田委員
※欠席（佐藤委員、勢一委員）

4 会議次第

- ①開会
- ②議事（事務局より、説明資料に基づき内容を説明）
- ③閉会
- ④現地見学

委員からの主な意見

- 委員
- ・建物の高層化が進むにつれて、緑に光が当たるスペースが少なくなっていくが、ヒートアイランド現象や公益的機能を考えると光が当たるところに緑を配置する必要がある。快適な緑空間をどうポイントポイントで確保していくのか、緑のデザインを民間事業者と一緒に考えていけるような具体的なマニュアルが必要。
 - ・福岡市都市緑化マニュアルを作っているが、相当古い。しっかり改定し、近郊の緑も含めてどうあるべきか、考え方、使用樹種というものをしっかりした方が良い。
 - ・緑の基本計画は市民との契約書。「現在基本計画を策定中ですよ」ということを広く市民に周知して、できるだけアップトゥデートに計画策定が進められると良い。
- 委員
- ・今の流れをみると、以前より身近にある公園だけでなく、「緑のネットワーク」「河川に対する緑」「自然環境を重視した緑」など、自然環境やまち全体に対して意識がだいぶ変わってきている。
 - ・高齢化の中で、愛護会などの地域の取組みの見直し時期もきている。地域との企業・団体連携など新しい取組みを重視した方が良い。
 - ・SDGsの目標が2030年であるため、「SDGsへの貢献」というのは、10年後に古くなる言葉。本計画では避けた方が良いと感じた。
- 委員
- ・数字は結構達成していて、それなりに結果を出していると思うが、市民のリアクションや反応は決して良いものでないような気がする。
 - ・アンケート結果について、母数が少ない。
 - ・市民の賛同が得られていないというデータが前に出ているため、ここに広報計画のようなものを盛り込んだらどうか。どのように市民に伝えていくか、アプローチするのか、できればこの辺を積極的にやってみてはと思う。
- 委員
- ・今後も住宅地の開発要求が続く中で、市街化区域内の小規模な農地が減少していること

や、緑地が宅地が変わっていくところをどう食い止められるか。

・緑の基本計画の中で、都市の農地を守るということを盛り込むことも大事。基本方向「守る」には森林はあるが、農地という言葉は入っていない。ここは意識的に入れておいて良いのではないか。

・宅地（既存・新規ともに）において緑の量を確保するという点について明らかにしておくのが良い。福岡市という特殊な人口増減をしているところなので、実態に合わせてオリジナリティある緑の基本計画にできれば。

事務局

・人口を踏まえ、都市計画マスタープランの改定も行っている。適宜、検討内容を示しながら議論していきたい。

・農地についても、できるだけ活用していく方向に転換されつつある。量の確保も大事であるが、質の確保でどうリカバーするか、検討していきたい。

委員

・風致地区の樹林地も減っていくなど、守ってきた緑がどんどんなくなっている。それだけ戸建て住宅やマンションのニーズが高い。

事務局

・今後10年で守っていくべき緑はしっかり守っていかないといけないと考えている。緑の骨格でいえば腕の部分の太くしていく、守っていくなど、そういった視点で重点化についてご意見いただきながら取り組んでいきたい。

委員

・農業も担い手が少なくなってきた。

・昔は戸建てには必ず緑を植えましょうというものがあったらしいが、今は戸建てでも緑は植えない、宅地いっぱい家に建てるところが多くなっている。マンションの周りの緑にも力を入れていないのが現状。

・公園愛護会があるが、高齢化で若い方々が参加してくれない。そのため愛護会を「もうやらない」となって、公園が草ばーばーになっている。

・あまり高い木を持ってくると危なくなるため、なるべく子どもの背丈の木でやっていかないと。反対に公園の緑にゴミを捨てる人もいる。

・「なぜ公園の掃除をしないといけないのか」という町内の意見がある。行政と市民とで話し合いを持って、愛護会の必要性を言っていくことが大事なのではないか。

・公園を避難所にするのはとても大事。公園がこれだけあるのであれば、それを発信してもらえと、みんなあそこの公園に行けば良いとなってくる。発信が一番大事。

委員

・人の入れ替わりが早くなっているところや、若い人も忙しくなっている。少し関わって飽きてしまう志向もあるように感じている。現代の人々の生活スタイルや志向に、マネジメントの仕組みが合っていない。参加の仕組みが充実していないのではないか。市民が私事として関われる共の場づくりもできていない。

委員

・良い感じの緑はうれしいが、草ばーばーは嫌。気持ちの良い緑は何なのか。緑の質に関してどうしていくのかは、議論することがあっても良い。

・愛護会の高齢化は全国的な課題。人手は減っていて、体力がなくなりできなくなっている人も増えている。楽にメンテナンスできる公園の作り方について、福岡市が方向性・考え方を先進的に示したら、助かる人も多いいのではないか。

・子どもたちが公園を育てていくことに関わるきっかけがあれば、まちづくりに関わる気持

- ちの育成にもなるし、雰囲気も良くなるし、教育的な価値があり、人手不足の面でも良い。
- 委員 ・手がかからない公園デザイン、手をかける公園デザイン。そこに教育や収益などの方向性がある。
- 委員 ・身近な家庭の中に緑があるのは小学生が大きくなっていく過程で重要な要素。「家族が花が好きということ」や「学校に緑があること」で、将来の担い手予備軍やマインドを育てていくことが大事。
- 委員 ・一定程度規模のある公園を民間企業に運営を委託する、指定管理者制度で民間企業のアイデアを出してもらい活用していくと良い。住宅地や地域にもいろいろな企業がいるため、小さな公園でもそういう企業が社会的貢献を考えているところもある。
- 委員 ・連続的な緑はより健康に資するという話を聞いている。例えば、住宅から駅までが緑豊かになることで、日々のストレスが軽減され、全体としてストレス緩和につながって健康に資する。横断的視点でウェルビーイングへの貢献との連携ができれば良い。
- 委員 ・都心の緑は減っているが、都心の緑の質へのアンケート結果は良かった。その辺りは連続した緑が重要である。その辺りをしっかり強化していく。
- 委員 ・基本方向の要素はぶれない方が良いと思っている。
- 委員 ・公園の防災について、基本方向5では薄く書かれている。指標みたいなものがまだ必要かと思う。他は項目が結構あるのに対し、ここは1つしか書かれていない。
- 委員 ・熊本、東日本など、自然災害リスクがかなり高くなっているのはしっかり認識し、それが緑の基本計画の中に入ってくるのが大事。
- 委員 ・公園の中の防災機能について、具体的な取組みを洗い出して、足りない部分を本計画に盛り込むことが大事。
- 委員 ・防災拠点となる公園の整備の継続はもう少し具体的な方向性を書き出していただけると良い。
- 委員 ・公園だけでなく様々な基本計画に書かれているため、それが公園とどうリンクしているかをつなぎ直してもらえると良い。
- 委員 ・例えば、炊き出し用の器具が地域に何%盛り込まれているかとか、福岡市が直轄管理している公園(舞鶴公園や東平尾公園など)には公益的な機能がどの程度備わっているかとか、が明確になっていると良い。
- 委員 ・グリーンインフラの推進については、国の方向性がベースにあり、福岡らしい解釈が必要。それがたぶんウェルビーイング。もう一つ、これに防災の考え方も入れていかないといけない。安全安心も公園緑地が担っていく大きな要素。防災とそのまま書くのかどうかは事務局で検討して、入れていただきたい。
- 委員 ・住宅地の緑が減っているのは危惧している。子どもが身近な緑を公園の緑とすることはポジティブなようだが、逆に、自分の家など手の届くところに緑がないという。でもそれは公園がどう担っていくかということ。
- 委員 ・一番の課題は、公園をつくる、管理する仕事をしたいという子どもが減っていること。教育にコミットできる部分があっても良い。
- 委員 ・教育について、縦割りじゃなくこども未来局などを巻き込んで、ワークショップなどをや

- っていくと、他の計画と関係していく。
- ・大きな物語と小さな物語をきちんと切り分ける。大きな物語が小さな物語を包んでいる。大きいものと小さいものの両輪でないといけない。
 - ・感じている市民の割合という達成指標と緑被率や緑の面積といった具体的な数値がごっちゃになりすぎていて、判断しにくくなっている。ここは整理していただきたい。
- 委員
- ・「福岡には地震は来ない」と思わず、地震が起こることを想定して、水害含めしっかり準備していく必要がある。
- 委員
- ・緑地保全地区や風致地区の緑が減っている中で、担保していかないといけない。
 - ・緑地保全地区もただ指定するだけでなく、どう活用するかもセットで考えないと、藪になってしまうだけ。
 - ・どこで市民とつながっているか、自然災害とのつながりとか、かなり密接にあると思う。ネイチャーポジティブもそうである。その辺りきちんとつないていただけると良い。
 - ・いかに地域制緑地を活用していくか、そのありがたみを知ってもらうかが大事。
- 委員
- ・災害時の対応は、平時に準備ができていないと災害時動けない。普段の公園利用の仕組みが災害時にぱっと切り替えられるか。そういったスキル、チームワーク、コミュニケーション、行政との連携が災害時の避難・復旧につながっていく。
 - ・質の評価をビジュアル化してYouTubeやテレビなどでどんどんアピールしていく。緑の良さとは何か、をしっかりと伝えていくことが都市戦略として必要ではないか。緑のクオリティに対する福岡市の本気度をどう見せるかも大切。
- 委員
- ・成果指標で、「水辺が豊かである市民の割合」「都心の緑が豊かであると感じている市民の割合」「地域の公園に親しみを感じている市民の割合」は、これはエリアごとに差異があるといったデータがあるのか、分析する必要がある。
 - ・先ほどの防災の話でいくと、近隣公園レベルがすごく大事。
- 事務局
- ・防災機能を踏まえると、課題だと思っているのは近隣公園の配置。これを課題として整備していきたいと考えている。とはいえ、福岡市に1ha以上の土地がうまく空いているところがなく、公共施設の再編の際に空き地を公園化したり、廃止されたため池を公園化している。
 - ・これまで作ってきた公園緑地を活用することを踏まえ、H28年度に「福岡市みどり経営基本方針」を策定し、それぞれの公園や地域特性を踏まえて、管理運営、活用していこうと進めている。H28年度に策定したため、本計画にどう落とし込んでいくかは整理が必要と感じている。
- 委員
- ・ハードウェアとして整備していくことが防災機能や環境保護機能と直接結びつく。それがきちんと整理されて、いかに使うかというソフトウェアの部分。
 - ・基本方向2「結ぶ」には、ハードウェアとしてつなぐ部分が重要。緑の腕などの部分と保全系の緑地をどううまく配置していくか。場合によっては、ここは河川があるから河川を強化しようなど。
 - ・つながっていることは大事で、人の利用まで促進される。そうなるとソフトウェアの活用としてみえてくるものがたくさんある。公園内だけでプログラム展開・アクティビティ展開するのではなく、公園外とのアクティビティも重要。（街路樹の下を通った方がアクセ

スしやすい、など)

- 事務局
 - ・民間事業者との連携も重要な命題になってきているため、しっかり仕分けして何ができるか考える。それを基本計画に盛り込むことは大事。
 - ・ソフトウェアとハードウェアについて、プランをつくる際には最後にどのようにアクションに落とし込むか、アクションとしてどう動きやすいか、みたいなのが、うまくはまると良い。ハードとソフト両方を生み出すプランになると良い。
- 委員
 - ・ハードウェアとソフトウェアのつながりが必要。二つ揃うとつながるだけでなく、開いていく。“つなぐ”から“開く”にいくために、基本計画で明確にさせていただくと良い。縦割りにならないように。
- 委員
 - ・これまではハード重視であったが、ここ数年、緑で社会課題を解決し、それでいろんなパートナー（医療、福祉、教育、ビジネスなど）とつながることが世界的な潮流である。いろんな人たちが緑へアクセスできるために、つながるチャンネルを増やす。
 - ・緑で今どんな課題を解決できるのか、といった発想の転換や創造的な取組みが今後さらに求められるのではないか。それをどう地域別実施できるのか、リソースや体制、ブレインがいるかなど細かなところを精査していかないと言葉だけに終わってしまう。
- 委員
 - ・基本計画は市民や企業など行政だけでなく色々な人たちの力を集める計画にしていけないといけない。改定の方向性として市民をプレイヤーにしていく目線で強く書いても良い。
 - ・「福岡市民である以上緑は自分たちで作っていくんだ」というくらいの10年間を目指して方針をつくってみてはどうか。市民自体が意識変革を起こせるような基本計画になることがベスト。
 - ・防災も市民が意識しなければ、どんなハードも絶対機能しないため、市民の意識をつくっていく基本計画になるとすごく良い。
- 委員
 - ・言葉の使い方をもう一度見直していただきたい。いかにも行政的な計画とならないように、「お、こんな言葉つかっているんだ」というような。その辺りは計画として重要。今後10年間計画を進めるうえでワクワクするような事業を進めていただきたい。
 - ・強い人口増加と住宅開発圧力、さらにはスマホなど内向きなライフスタイルに変わっている中で、いかに「デザイン」や「教育、子育て」として魅力的な緑づくり・緑育をできるのか。マニュアル整備や他部局との連携をどうしていくのかも考えていただきたい。
 - ・指標が今のままで良いのか、客観的な使えるデータがあるのか検討いただくと良い。
- 委員
 - ・一人一花運動は地域の方たちも楽しんでやっておられる。緑化だけにとらわれず、緑化の中に四季折々のお花や草花があることで癒されて笑顔になるのでは。